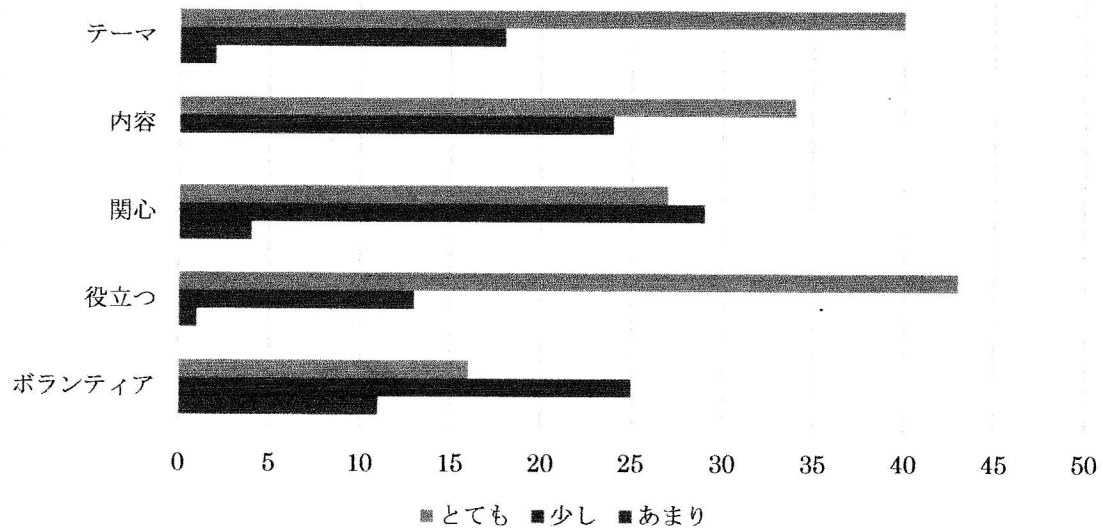


傾聴講演会アンケート



今後聴きたいテーマや講師

- ・ 地域支援の方法とその広報の仕方
- ・ 多種多様な社会資源の活用の方法
- ・ 認知症予防の最新情報
- ・ いきがいとは
- ・ (傾聴ボランティアをするために) 高齢者の生きがいや延命治療について
- ・ 大津市堅田学区の具体的な話
- ・ 親の介護～人間的見地からの判断～について
子供たちが親の介護が難しいからと他人の手に丸投げをする
- ・ 軽度 (本人は認知症とっていない) の認知症のある人への対処方法
- ・ 「傾聴」の考え方、実践方法
- ・ 傾聴来訪の喜びや感動 (難しいことではしたが…)
- ・ ユマンチュード
- ・ 化学物質過敏症
- ・ 希望する講師

竹田伸也先生、鈴木絹英先生、高塚人志先生、田山泰久さん

その他の意見

- ・孤立した方々は自分らしく生きる希望を見失っていると思う。「傾聴」はその方たちの自分らしさを見つめなおす機会になっている。期待しております。
- ・笑顔は大切
- ・お話を聞いてよかった。
- ・大変良いお話を聞かせていただきためになりました。
- ・時間が取れるようになったらさせてもらいたい。
- ・もう少し年を重ねたら自分自身も傾聴ボランティアをと考えている。
- ・妻に頼って生きてきた自分（71才）の身になって考えた。今後どのように自立していけばいいのか。
- ・（生れ子を育てられないので捨てると同様の言い訳はできるかもしれないが…）老若男女が助け合って暮らす方向を目指すべきだろう。
- ・傾聴ボランティアは認知症が増える中で不可欠だと思う。
- ・核家族の防止はいかにすれば…
子供のころからの教育に問題があるように思う。
- ・身につまされる思いで聞きました。なぜなら主人が亡くなり子供もいなく一人住まい。ぼけたことが自分で分かるのかと不安になった。
甥っ子、姪っ子にはそれなりにお願いをしている。75才です。
- ・健康寿命を延ばす施策をどんどん進め広めてほしい。
- ・一人生活の人に何時も傾聴を心掛けています。
- ・講演から傾聴ボランティアの今後の活動の在り方がわかった。
施設内への訪問より地域へ出るということ
- ・教員だけでなく、一社会人として「傾聴」の姿勢は大切だということを学ばせていただきました。
- ・傾聴、傾聴でなく語り合いが重要
- ・80才と77才、夫婦二人の生活です。福祉の方のお世話になる日も近いと思います。どうか、力になっていただきたい。
- ・体が不自由なのでボランティアしたくてもむづかしい。
- ・竹川先生のお話にありましたが、「一人一人にかかっている」というようなことが、あらゆる課題や問題に通ずるのではないか。
- ・傾聴についてわかりやすく話をしてほしい。
- ・実際に活動している人の話を聞きたい。
- ・傾聴ボランティアの実践と成果、自分自身の成長があった事例を。また、難しさや苦勞体験をお聞きできれば…
- ・貴重なお話が聞けて良かった。
- ・地域包括システムができるよう参加したい。